

ソーシャルディスタンスベンチ

Social distance bench

中澤峻
指導教員 坂元愛史

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 インテリア・家具研究室

キーワード：コロナウイルス、ソーシャルディスタンス、ベンチ

1. はじめに

コロナウイルスの関係で人と 1m 以上の距離(ソーシャルディスタンス)を取らなければならなかった。その関係で、飲食店の席や屋内のベンチでは一席空けて使用というルールになり、隣同士に座ることができなくなってしまった。これらによってベンチが機能面の問題と、デザイン面の問題が生じてしまった。

機能面の問題では、例えば三人掛けのベンチの場合真ん中の一席を開けなければならないことによって子連れの人や子供の座る範囲を十分に確保できず、非常に不便であるということが調査によりわかった。

2. ベンチの詳細

国土交通省[1]から「道路占用許可基準」[1,2]により、ベンチは、バス停留所、タクシー乗場、高齢者等の交通弱者が多数利用する施設の周辺、ショッピングモール、コミュニティ道路、遊歩道、道の駅、サービスエリアなどに設置する場合など道路の歩行者等の利用形態から判断し、地域の実情に応じ、公益上設置することが妥当な場合は許可するものとされている。

またベンチの構造に関しては、原則として固定式とするなど、容易に移動できないものとし、十分な安全性及び耐久性を具備したものであることと書かれている。

3. ベンチに関する調査

3-1. ベンチの定義

ベンチの定義は様々だが、一般的には「ベンチは、古代より伝統的には背もたれのない腰掛(腰を下ろすための台)の一種を指す。しかし現代では、横に長い椅子の形状をした腰掛」であることがわかった。ちなみに道路占用許可基準法[2]ではベンチは、原則として長さ 3メートル以下、幅 0.7メートル以下とし、路面に固定することと決められている。

3-2. ベンチの種類

ベンチには多くの種類がある。ストリートファニチャーを扱っている株式会社コトブキ[3]の販売しているベンチの種類は 20種類もある。街中でよく目にするエフライン、駅のホームで見かけるエルライン、バス停付近に設置されているサポーターなど、様々である。

最近では「可動式緑化ベンチ」[4]という暑さ対策用のベンチも出ている。これは緑化植物による緑陰効果と細霧ミストの効果で、日向と比較して体感温度を 11度も下げることができる。また可動式なゆえに環境と状況によって移動可能である。

4. ソーシャルディスタンスを考えたベンチ

アムステルダムを拠点とするデザイン会社 Object Studio というところは、屋外で一緒に座っても安全な距離を保つことができるようにする

ために、『CoronaCrisisKruk』[5]というハンドル付きの小さなベンチを開発した。長さ 1.5m の材の端に二つの椅子を設置しただけの単純な制作物ではあるが、デザイン面もよく、機能もしている。また、ハンドルがついていることで持ち運ぶことができる。

<https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1562821811076/index.html>

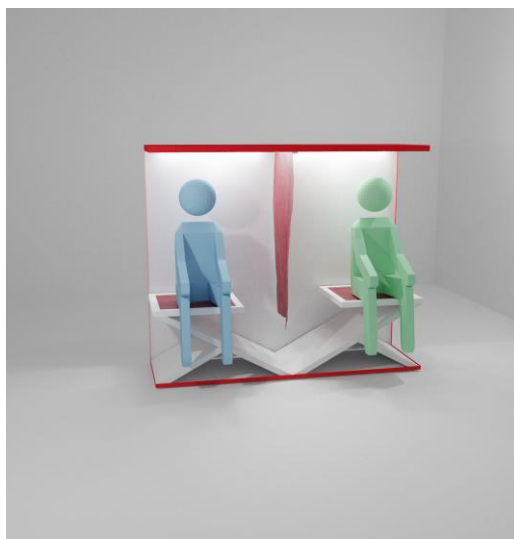
[5] CoronaCrisisKruk

<https://www.object-studio.com/coronacrisiskruk>

4. アイデア展開

1m 以上の距離が取れ、また間に布を挟むことで精神的にも区切ることができる。

場所の設定としては屋内の休憩所、廊下など。



5. 今後の展開

現実的に作成可能なデザインの提案とベンチを置く環境、素材の具体的な設定の検討。

6. 参考文献

[1]国土交通省

<https://www.mlit.go.jp/notice/noticedata/sgm1/077/79000319/79000319.html>

[2]道路占用許可基準

https://www1.g-reiki.net/cityota.reiki/reiki_honbun/g112RG0002464.html

[3]株式会社コトブキ

<https://townscape.kotobuki.co.jp/product/bench/>

[4]調布市, 緑陰ベンチ